

# 生活科部門



総評

日常の中からテーマを選んだ生活科らしい作品が、今年もたくさん集まりました。その中でも、「自分なりの気付き」があり、また、研究をしつかり「生活」に結び付けている作品が、特に高く評価されました。

個々の作品制作に関しては、パソコンの普及に伴い、ホームページをプリントアウトして資料にする作品も目立ってきましたが、このような資料はあくまで脇役とし、オリジナルの資料中心の作品作りを期待します。

## 文部科学大臣奨励賞

すずしくいよう ぼくの家

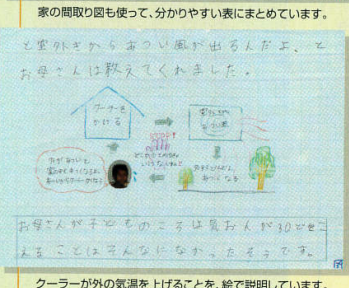
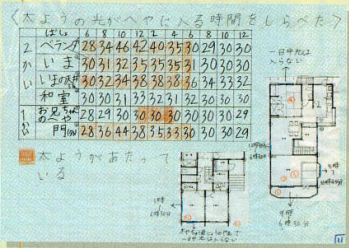
要知県 要知教育大学附属岡崎小学校 2年生 武田 能生

「1階で寝ている頃は暑くて時々夜中に目が覚めるのに、1階で寝ているお兄ちゃん2人は一晩中ぐっすり眠っている。家の中でずいぶん涼しいところはあるのかな?」という、熱帯夜の続いた今年、タイムリーな疑問を取り上げた作品です。

家のいろいろな場所での気温の違いや、太陽の光が部屋に入る時間と気温の関係を調べ、家の間取り図を使いながらわかりやすく結果をまとめています。またどうやったらすずしくなるのかを自分なりに考え、凍ったペットボトルを扇風機の前に置いてみるなど、子どもらしい発想の実験も飛び出します。

様々な実験をした結果、簡単に2〜3度は気温を下げられるとわかったもののクーラーのすずしきにはかなわないと考えた能生くんでも、家であまりクーラーをつけないのはなぜかを家の人に聞いてみて初めてクーラーが外の気温を上げる原因になっていると知り、2度さるだけクーラーを使わないようにしよう。みんなにもこの結果を伝えたい。」とまとめています。

日常の些細な疑問から始まった研究が、最終的には環境問題に関心を示すほどの広がりをもせています。生活科で大切な、自分と社会・自然との関わりをしつかりふりかえることのできた作品に仕上がりました。



## 子どもの文化・教育研究所 理事長賞

わたしのはっぱすかん

岐阜県 岐阜市立長良西小学校 1年生 山田 理紗子

1年生にしては膨大な数にのぼる植物の葉を採集し、「形」「すじ」の模様「葉のつき方」に仲間分けした大作です。採集した葉それぞれについて絵を描いて押し葉にし、「葉っぱ印刷」をすることにも、「さわった感じ」に「お虫めがねで見た感じ」などを丁寧にまとめてました。次第に、葉の絵もとても上手になつてきて、思の長い研究であることが伝わります。

「観察日記」に終わってしまった作品が多かった中、仲間分け(分類)という科学の基本的考え方をしっかりと獲得している点が特に高く評価されました。



50種類以上の葉の特徴を、丁寧に整理しました。



「葉のつき方」の仲間分け。とても分かりやすくまとめています。



理紗子ちゃんの顔より大きい葉っぱ!

## 全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会会長賞

わたしのてんきょうにのそのかんさつ

東京都 白百合学園小学校 1年生 國頭 真理子

「夕方の空を見ると次の日の天気かわかる」といふ言い伝えを裏証すべく、毎日の空の写真を撮り、天気予報をした作品です。自分の予想とNHKの天気予報とどちらが当たるかを比べるという目的づけどころがユニークです。



夏休みの1か半月の間、一日も休まず研究を続けました。

## 中央出版株式会社 社長賞

木のもようへん

東京都 白百合学園小学校 1年生 萩尾 巴香

木の幹の模様と葉の形の関係を調べ、予想と調べた結果を丁寧に比較した作品です。それぞれの木について写真、絵、実物の押し葉を並べ、見せ方にも工夫を感じられました。



お手本にしたい絵や写真との分かりやすさ。

## 優秀賞

「がりがりとんぼはなぜまわる?」

東京都 白百合学園小学校 1年生 粕谷 有希

わたしの町のお店図まとめ

岐阜県 柳津町立柳津小学校 2年生 松名 美咲

